

## コラム 一般道路用ワイヤーロープ式防護柵の性能確認試験の実施

ワイヤーロープ式防護柵が従来のケーブル型防護柵(ガードケーブル)と大きく異なる点は、車両が衝突した時に支柱が変形し、衝撃をワイヤーロープが受け止めて車両と乗員へのダメージを緩和する点にあります。支柱が細いので道路の幅が狭い箇所や既設道路にも設置でき、人力でワイヤーと支柱を取り外すことができるので、事故等の緊急時には処理作業や交通切り回しに必要な柵の開口部を迅速に設けることも可能です。また、除雪作業による柵の変形や堆雪による車線への障害が少ないことも利点です。

高速道路用に開発されたワイヤーロープ式防護柵(写真-1)は、平成24年11月に開通した道央自動車道大沼公園IC～森IC間に我が国初の事例として試行導入が行われ、その後全国各地で導入が進んでいます。

寒地交通チームでは、高速道路用に引き続き一般道路用の防護柵の開発を進め、平成26年3月に性能確認試験(写真-2)を実施しました。乗用車を使った衝突試験では、車両は横転や転覆することなく安全に誘導され、対向車線へのはみ出し量も基準を満足しました。また、車両の前部が破損したものの車室は保存され、加速度も小さく、高い衝撃吸収能力が確認されました。大型車を使った試験でも対向車線へのはみ出し量の基準を満足し、防護柵設置基準Bm種(一般道路用)の全ての基準値を満足することが確認されました。一般道路用の柵(図-1)が開発されたことで、現場への普及が一層進むものと期待されます。



写真-1 高速道路に導入されたワイヤーロープ式防護柵



写真-2 大型車による衝突試験

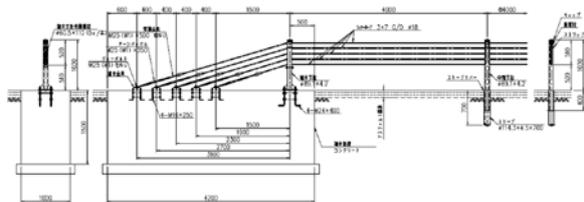


図-1 一般道路用柵の詳細図